あの人は帰って来ます。
わたしがきっと
帰って来させます。

「月山」の村野鐵太郎が
幻想の里
遠野に謳いあげる
激しい愛の伝承

村野鐵太郎監督作品●岩手放送開局30周年記念映画●IBC岩手放送＋俳優座映画放送・麻布企画・鐵プロ提携作品●〈カラー作品〉日本ヘラルド映画 Herald

第35回イタリア・サレルノ国際映画祭グランプリ受賞

遠野物語

原作■柳田國男「遠野物語」
■阿伊染徳美「わがかくし念仏」
企画■河野逸平
■原正人
製作■太田俊穂
■村野鐵太郎
■佐藤正之
プロデューサー■菅原正
■久原正之
脚本■高山由紀子
撮影■吉岡康弘
美術■間野重雄
録音■神田明良
照明■山田和夫
題字■高山辰雄
音楽■姫神せんせいしょん
主題歌■N・S・P
（サンドラ祭・キャニオンレコード）
小説「遠野物語」
単行本・紀尾井書房刊
文庫版・ヘラルド出版刊

原陽子
隆大介
江波・杏子
滝田・裕
葉山良二
峰岸徹
稲葉義男
役所広司
貞永敏
桐夕紀子
片桐・比佐志
井川比佐志
早川雄三
本郷淳
冷泉公裕
夏木章
飛田雄
螢雪太郎
佐喜太郎
杉山と代子
川上夏代
川口敦子
北林谷栄
菅井きん
長岡輝子
藤村・志保
仲代達矢

●小夜
原　陽子
●武夫
隆　大介
●巫女
江波杏子
●雅子
藤村志保
●乙蔵
仲代達矢

村野鐵太郎監督作品

遠野物語

いま、浪漫が北から駈けてくる

■解説

おんなに生まれて、恋に生きぬとは――。幻想の里、遠野にはぐくまれてきた激しい愛の伝承がよみがえる。薄明の野に、いのち賭けておもいをつらぬいた小夜十六、武夫二十二。浪漫が北から駈けてくる――

いま「遠野物語」。

「月山」(79)で文部大臣賞受賞の村野鐵太郎監督の新作である。原作は、日本民俗学の最高峰と言われる柳田國男の「遠野物語」。岩手県遠野市は、北上山地の間にあり、昔からたくさんの民間伝承が語り伝えられてきたところである。「遠野物語」は、一一九の逸話より成るが、映画化にあたっては、第六十九話を、そのモチーフとした。愛する白馬に乗って、天に昇っていった若い娘の話である。時代設定は明治三十七年。日露戦争の時代に、あたかも伝承のヒロインのように、恋に殉じて天に昇っていく若い女性の話である。

主演は、仲代達矢が主宰する「無名塾」の新人・原陽子。相手役の青年には、同じく「無名塾」の隆大介。「影武者」「日本の熱い日々・謀殺下山事件」で、すでにおなじみだ。そして仲代達矢が、若い二人を見守って共演する。音楽は、盛岡在住の星吉昭と〈姫神せんせいしょん〉が担当。各方面で高い評価を得たLPアルバム「奥の細道」「遠野」などがある。主題歌「遠野物語」は、同じく地元のN・S・Pが担当した。

(上映時間1時間50分)

遠野にはぐくまれてきた愛の伝承

■物語

豪農・佐々木家の一人娘・小夜(原陽子)は十六歳になった。美しく成長した娘に目を細める父・徳太郎、母・雅子、そして兄の初大郎。その夜、佐々木家では、旅の琵琶法師・乙蔵(仲代達矢)を招いていた。澄んだ琵琶のひと打ちで始まる「清悦物語」。その琵琶の音を、佐々木家の前にたたずみ、じっと耳を傾けていた若者がいる。三年間の兵役を終えて、いま帰ってきた武夫(隆大介)である。武夫の家は、かつては佐々木家と並ぶ豪農であったが、父の代で没落し、いまでは佐々木家の小作となろうとしていた。

馬厩から出てきた武夫の前に、小夜が姿を現わす。「オシラサマの日に帰ってきてくれたのですね。約束を守ってくれたのですね」と、声をかけるのだが、武夫は頭を下げると、そのまま門から出ていってしまった。

早池峰の八幡神社の祭りの日、佐々木家の白馬は、神馬に見たてられた。麻布にくるんだ鞍を置き、白衣に見を固めた武夫が手綱をとると、それは神々しい、まさしく神馬そのものに見えた。やがて遠野独特の神楽舞いが始まり、薪が音をたてて燃えあがる。真っ赤な炎を見つめている小夜。そして炎の向こうには武夫。目線が合ったとき、神楽はさらに激しく舞って、人波が二人をのみこんでいった。「あの祭りの日、私が見ていたのは、私の胸の中の炎だけ。お願い、あなたの心を見せて下さい」――

武夫の姿が村から消えた。そして、ある夜のこと、琵琶法師・乙蔵が小夜を訪ねてきた。武夫からの預りものだと言って包みを渡し、彼にも召集令状がきて、弘前の連隊に入ったと告げるのだった。その包みには、美しい柄の着物がたたまれていた。

この日から小夜は、何か心に決めたようであった。両親にはっきりと縁談を断わり、粉雪の舞う中を裸足でお百度を踏む。怒った両親は、娘を部屋にとじこめた。だが、強風が吹き荒れる、ある夜のこと。厩舎の白馬は柵をこわして走りだし、小夜もまた蹄の響きに引きよせられるように、武夫から贈られた晴着を着て原野へと走り出た。その頃、早池峰山の稜線には、青白い炎につつまれて、疾駆する白馬があった。その背では、ロシア戦線にいるはずの武夫が、純白の軍服に身をつつみ、しっかりと小夜を抱いていた。

●第35回サレルノ国際映画祭グランプリ受賞記念／開館1周年記念特別ロードショー

12月17日(金)から12月23日(木)まで

シネマスクエア とうきゅう
新宿コマ劇場向いミラノ座横3F (232)9274

上映時間		
	1回目	12:40～15:30 「おこんじょうるり」と講演と「遠野物語」
	2回目	15:50～18:10 〝スタッフからの報告〟と「遠野物語」
	3回目	18:40～21:30 「おこんじょうるり」と講演と「遠野物語」

●特別鑑賞券¥1,200(当日¥1,500均一の処)発売中
■〈全席自由定員制●入替制〉は必らず座ってご覧頂けるシステムです。

●講演は荻昌弘、河野基比古、小森和子、佐藤忠男、品田雄吉、水野晴郎、淀川長治、村野鐵太郎の各氏です。詳しくは劇場までお問合せ下さい。